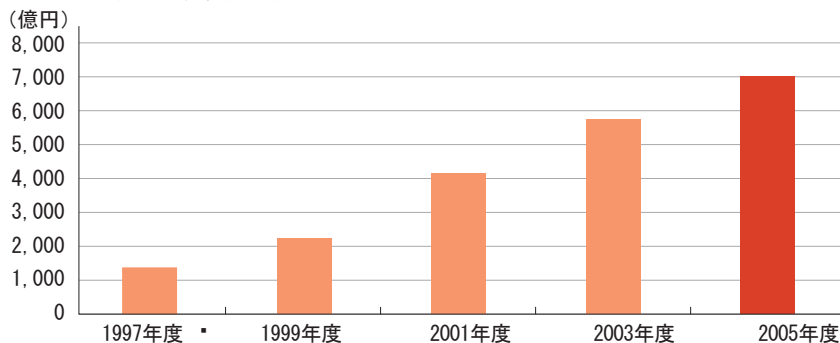


# 数字で見る経済

経済ニュースの？がわかる!!

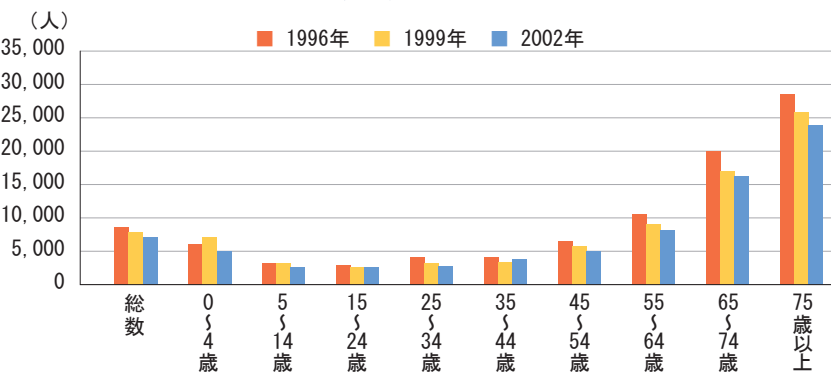
## 医療費削減に効果あり？ 数字でトクホを考える

図1: トクホの推定市場規模の推移



資料: (財)日本健康・栄養食品協会(一部加筆) 注: 2005年度は筆者の推測。線形回帰分析により算出。

図2: 大阪府における入院・外来患者数の推移(年齢別・人口10万人あたり)



資料: 厚生労働省「患者調査」より作成

### 特定保健用食品 「手軽さ」で市場拡大

(2004年10月24日 産経新聞「東京」を読んで)

近年、特定保健用食品(以下、トクホ)の市場が堅調に成長を続けています。(財)日本健康・栄養食品協会がトクホの表示許可取得企業を対象に調査したところ、2003年度の市場規模は、5,658.8億円(メーカー希望小売価格ベース)で、表示許可・承認は累計398品目となりました(図1)。これまで牽引役となってきた乳酸菌を中心とする整腸関連が金額ベースで約60%を占めています。しかし、2003年の調査では、ガムを中心とした歯関連、食用調理油(中性脂肪・体脂肪、コレステロール対策)、茶(血糖値、体脂肪対策)の伸びが目立ちました。各社の商品開発は活発で、市場拡大はまだまだ続きそうです。こうした好調の背景には、消費者の生活習慣病に対する認識や予防意識の高まりとともに、効果・効能の表示という「お墨付き」があることへの信頼感があるようです。

今後、トクホ制度の見直しにより、条件付きトクホ(現行のトクホの審査で要求している有効性のエビデンスのレベルには届かないものの、一定の有効性が確認される食品)が追加されるなど、ますます健康食品の市場が拡大すると思われます。この勢いが続けば、2005年度にはトクホの市場規模は7,000億円を突破するでしょう。私の推計では、大阪府における2003年度のトクホの市場規模は149.2億円でしたが、2005年度

には184.2億円まで拡大すると思われます※。

さて現在、我が国では世界で最も速いスピードで高齢化が進行しています。一般的に、高齢になるほど医療機関での受診機会が増加しますので、今後、我が国の医療保険費は増大していくことが予想されます。これは財政を圧迫するため、医療費の削減が大きな課題となっています。厚生労働省の患者調査の結果を見ると、近年、各年齢層において患者数が減少しています(図2)。これは1997年の医療制度改革により、被保険本人の自己負担率が1割から2割(2003年に3割)に引き上げられたことにより、受診抑制が起きたことが考えられます。

このような自己負担率の上昇による受診抑制ではなく、今後、健康・予防医療に関するさまざまな取り組みが功を奏して医療費の削減に繋がることが期待されます。トクホもこうした取り組みの一翼を担うことは間違いないでしょう。「トクホを食す⇒健康に関心を持つようになる⇒バランスの良い食事と適度な運動などを常日頃から心がけるようになる⇒結果として医療費の削減につながる」ということになると良いですね。

※推計方法は以下の通り。

2005年度は2003年度と同じ条件で計算。2003年度の推計値は、全国のトクホの推定市場規模 × (大阪市の各種商品小売業と飲食品小売業販売額の全国シェア [2002年: 3.09%] × スーパー・デパート・コンビニでのトクホ販売金額率 [55.9%] + 大阪市人口の全国シェア [2000年: 2.05%] × 戸配などのトクホ販売金額率 [44.1%])

### 井上智之(いのうえ さとし)

1970年生まれA型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツイ野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。